

日本秘書学会編集委員会

東京都新宿区高田馬場2-18-6 169
柳屋ビル4階
☎(03)200-6286

《特集》平成元年度 ブロック研究会活動報告



平成元年度は、新会長とともに、学会事務局も移転し、新たなる飛躍の年となりました。また、研究助成制度も2年目に入り、ブロック研究会活動も着実な成果をあげてきています。

本号は、各ブロックから本年度のこれまでの活動状況をご報告いただき、特集としました。

北海道ブロック

●リーダー

浅川 修二 北海道栄養短期大学

●サブリーダー

白河 智洋 静修短期大学

運営委員

大賀 淳 北海道武蔵女子短期大学

丹治 和典 静修短期大学

能登 洋子 札幌大学女子短期大学部

和野内崇弘 静修短期大学



第8回研究会の開催

日時：平成元年4月22日(土)

会場：北海道栄養短期大学

出席者：17名

研究会の冒頭、リーダーの浅川先生が「秘書学会発展の条件」と称して、教育者・研究者養成システムの開発ならびに教育・研究の方法論の開発・体系化について論述され、ブロック研究会の活性化、ひいては学会自体の活性化について言及された。

次いで研究発表に移り、乳井克憲先生(静修短期大学)が「パーソナルコンピュータを用いた日本語表現の評価」というテーマで発表された。乳井先生は、秘書教育のなかで展

開される日本語表現あるいは国語表現は、文章ではなく文書の表現を取り扱わねばならないという視点から、その能力の評価方法について説明された。具体的には、計算機システムの高度化によってもたらされたマルチメディアデータ(テキスト、図形、画像など)を処理することのできる機能を活かして、文書の構成要素に基づいたアウトライン見出しと書かれている内容との関連を評価するプログラムを紹介された。

後半は「秘書実務研究をめぐって」能登先生の進行によりフリーディスカッションが行なわれた。まず最初に、白川先生より「秘書実務研究と秘書実務教育の統合」について問題提起がなされた。出席者の活発な討議を経て、研究と教育の統合の難しさを再認識するとともに、個人としての研究活動とさまざまに異なるその個人が求められる組織的要請に基づく教育活動との接点を見出すべく努力を続けようとの共通認識に至った。

第9回研究会の開催

日時：平成元年11月25日(土)

会場：静修短期大学

出席者：14名

開会挨拶のなかで浅川先生が「変革時代における秘書学研究的展望」についてふれられた。時代的要請をうけて、秘書学はどのように変貌をとげてゆくべきなのかについて示唆深い内容であった。

研究発表は、佐々木邦子先生(札幌商工会議所付属専門学校)が「女子労働と秘書教育—既婚者女子労働の視点から—」というテーマでなされた。発表内容は近年国際的な情勢と平行しながら徐々に変化を見せているわが国



の女子労働市場を踏まえて、女子労働の拡充について広範囲な秘書教育が望まれるとし、現代の女子労働に即した秘書教育のあり方についての試案であった。対象として、とくに既婚女子労働者を取り上げ、公的機関による婦人教育の内容として秘書理論や秘書実務の指導強化を提唱している。そして、その実現に向けて、現在秘書教育を行なっている短大や専門学校がネットワークを作り、指導的役割を果たすことが必要であると強調された。

引続き、前回(第8回研究会)の議論をさらに発展させるために、フリーディスカッション「秘書実務教育の深化をめざして」が行なわれた。前回同様、白川先生がまず口火を切り、実務教育の現状と課題について整理された。秘書教育のなかでの実務教育の位置づけ、実務教育内容の体系化、さらに実務教育の方法論などについて議論された。

(丹治和典 記)



関東・東北ブロック

●リーダー

森脇 道子 産能短期大学

●サブリーダー

佐藤 啓子 常磐学園短期大学

運営委員

天野 恒男 東京家政学院短期大学

大宮 登 山形女子短期大学

佐藤東九男 東京工芸大学女子短期大学部

白井 勇 専門学校 中野スクール・オブ・ビジネス

須賀 登 専門学校 東京スクール・オブ・ビジネス

高井由喜雄 学校法人 川口学園

中佐古 勇 日本橋女学館短期大学

西谷 正弘 目白学園女子短期大学

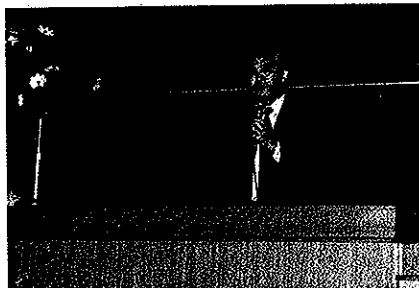
原田 夏子 共栄学園短期大学

藤田 利久 産能短期大学

藤本 幹子 千葉経済短期大学

堀江 光 城西大学女子短期大学部

矢沢 園子 津田スクール・オブ・ビジネス



平成元年、ブロックでの出来事としては、①第8回全国大会の開催、②研究グループによる継続テーマでの研究会の推進、③ブロック会費(1,500円)の徴収、④定年によるブロックリーダーと役員交代、⑤第1回研究助成制度による研究の中間発表などがある。

とくに、昨年より実施したグループによる

継続テーマによる研究会は、研究の積み上げが可能になり、着実に成果があがってきている。

なお、研究テーマはつぎのとおりである。

〈秘書理論〉 秘書理論の効果的な教育方法

〈秘書実務〉 国語表現と秘書実務の関連

〈国際秘書〉 国際化時代に於ける秘書業務と異文化理解

〈情報秘書〉 秘書教育における情報処理教育

研究会活動報告

第8回研究会は、平成元年3月25日(土)、産能率短期大学で92名の参加で開催された。

〈研究発表〉

秘書理論グループでは、目白学園女子短期大学の西谷正弘氏から「秘書教育に関する一考察—事例研究法を中心として—」と題して、時代変化にともなう秘書教育の変化とこれに対応する具体的教育方法の発表がなされた。

秘書実務グループでは、練物産研修センターの小横俊一氏より「企業における実務から秘書教育を考える」と題して、企業は学校の教育に期待をしているが、学校側の主体的態度を堅持する必要性について提言があった。

国際秘書グループでは、共栄学園短期大学の谷口佳子氏より「異文化理解と秘書教育」と題して、異文化理解に際しての基本的視点を明確にして押さえることと、秘書現象の実態把握の必要性について提言があった。

情報秘書グループでは、早稲田速記学校の高井由喜雄氏から「秘書教育におけるOA教育の目的—コンピュータを中心として—」と題して、秘書教育における情報処理教育の体系化と同時に「人間の能力の養成」の視点がOA教育にも必要であるとの提言がされた。

第9回研究会は、山形女子短期大学で平成元年10月7日(土)、74名の参加で開催された。

当日は、富澤学長、渋谷副学長のご好意と

教職員の方々のご尽力により、有意義かつ楽しい研究会で、会員一同充分に満ち足りた気分でのく山形をあとにした。また、今年度を持って定年退任するリーダーの高月先生、委員の木下先生の送別会も、ご配慮により理事、委員全員が参加して行うことができた。

《研究発表》

秘書理論グループでは、千葉経済短期大学の藤本幹子氏が「秘書理論教育における教育技法の活用」と題して、秘書理論教育は職業論としての側面を強化し、職業人としての啓発をさせながら秘書イメージを定着させていくことが望まれるとの考えを述べた。



秘書実務グループでは、共栄学園短期大学の木下雪江氏が「秘書実務教育の基本を求めて」と題して、企業における実務の急激な変貌と女性の社会進出を前提に実務教育をする必要性について発表をおこなった。

国際秘書グループでは、尚綱女学院短期大学の會澤まりえ氏が、国際秘書は日本文化と異文化の架け橋として十分にコミュニケーションできる能力が必要とされるとし、このための教育方法を米国の大学の例で紹介した。

情報秘書グループでは、産能短期大学の渡辺祐一氏、齋藤勇二氏が「秘書教育における情報処理教育の位置づけと役割」と題して、情報教育には、①システム化できる能力、②システム運用ができる能力、③情報表現力、などの能力養成の必要性を提言した。

(藤田和久 記)

中部〈東海・北陸〉ブロック

●リーダー

奥 喜久男 東邦学園短期大学〈東海地区〉

●サブリーダー

吉田 寛治 金沢女子短期大学〈北陸地区〉

中村 健壽 静岡県立短期大学部 〈東海地区〉

運営委員

〈東海地区〉

伊藤 和子 市邨学園短期大学

河村 眞澄 名古屋短期大学

佐々木怜子 愛知学泉女子短期大学

島名 正英 愛知女子短期大学

島本みどり 東邦学園短期大学

清水たま子 東邦学園短期大学

富田 義孝 享栄商業高等学校

水野 清子 岡崎女子短期大学

〈北陸地区〉

岡野 絹枝 富山経済専門学校

奥村 眞澄 仁愛女子短期大学

北湯 克輔 金城短期大学

水谷内徹也 星稜女子短期大学

本年度は、ブロック・リーダーとして長年にわたりブロック研究会の発展のためご尽力をいただいていた横山静雄先生がその職をご勇退になられ、当ブロック研究会にとっても大きな変容の年であった。横山先生には、中部ブロック研究会の顧問として今後共ご指導をいただくことになった。新しくブロック・リーダーとして奥喜久男先生が就任された。

研究会活動

1. 東海・北陸分会合同の「ブロック合同研究会」は、1989年10月21日(土)、愛知学泉女子短期大学で開催された(参加者30名)。研究発表のテーマ、発表者は次のとおりである(敬称略)。

①「情報秘書試験」吉田寛治・西川峰高

②「転換期のアメリカの秘書、秘書教育」川本和子

これらの研究発表は、今後の秘書学研究、秘書教育へ問題を投げかけるものであった。

研究発表後に「秘書概論」「秘書実務」「秘書のための経営学」の3グループに別れて、「グループ・ディスカッション」がおこな

れ活発な討議が展開された。

2. 「東海分会」研究会

1) まず「会報」第10号に間に合わなかった1989年度の当分会の研究会は、1989年3月22日(休)に、静岡県立短期大学部で開催された(出席者25名)。研究発表のテーマ、発表者は次のとおりである(敬称略)。

①「秘書教育への私見」太田正己

②「ビジネスゲームによる経営管理教育の進め方」松下高明

2) 本年度は、1990年1月6日(土)、名古屋市愛知会館を会場として開催された(参加者25名)。

研究会に先立ち、中部ブロック研究会主催の前ブロック・リーダー横山静雄先生への謝恩会がもたれた。

研究会は「最近の海外の秘書と秘書教育」というテーマでなされた。研究発表のテーマ、発表者は次のとおりである(敬称略)。

①「ロンドン郊外の秘書学校訪問記」

河村 眞澄

②「イギリスの私立カレッジ訪問記」

小谷野錦子

③「アメリカの医療秘書視察」

水野 清子

④「新聞の広告、その他から推測される秘書像と学校教育——アメリカ合衆国・中華民国の場合——」

荒川恵美子



いずれも、わが国の秘書教育あるいは秘書教育機関との比較研究の基礎的な質を提供するものであった。(中村健壽 記)

3.「北陸分会」研究会

1989年7月8日(土)、金沢都ホテルを会場として、七尾短期大学教授の鈴木孝昌先生に「情報秘書論」についてご講演をお願いし、それに続いて同テーマについて討論会を行った。

鈴木先生のご講演の要旨は概略次の内容であった。すなわち、情報化時代を迎えて、情報および情報を取り扱う者の重要性はますます増加している。とりわけ企業経営における経営品質の管理という視点からみて、意思決定者に対して必要期間に必要な内容の情報を取り出し、それを提供するものが情報秘書である。

情報秘書はA・Iとデータベースを駆使して、情報の入手、活用手段のシステム化を計り、インテリジェント・サーチャーとならねばならない、というものであった。

この講演に続いて、情報秘書の役割と名称、情報秘書の教育などの点について出席者より活発な意見や質問等が出され、充実した討論が行われた。

情報秘書については、従来は単に情報処理に強い秘書、というイメージ的なものだけが先走っていた感があるが、今回の研究会において真正面よりこれを取りあげたことによって、より具体的に一步踏み込んだものになった。

(吉田寛治 記)

近畿ブロック

●リーダー

田中 篤子 松蔭女子学院短期大学

●サブリーダー

福永 弘之 兵庫県立短期大学

運営委員

荊木 淳己 京都短期大学

宇都宮垂穂 園田学園女子短期大学

緒方 真澄 平安女学院短期大学

武田 寿子 大阪医療技術学園

矢野智恵子 京都経営管理専門学校



第8回研究会

平成元年3月25日大阪の「なにわ会館」で行いました。はじめは講演で、消費税導入を1週間前にして秘書にもどうかかわってくるかに焦点を絞って、大阪短期大学の山口尚夫先生に「秘書と消費税」と題して行っていただきました。個人研究発表は3名でした。トップバッターとして聖和大学短大部の林雄太郎先生の「秘書の行う事務管理の一環としての環境音楽に関する研究」と題する環境音楽などに関する目新しい研究がありました。

次いで、オーシスコンピュータ学院専門学校の田村欣二先生がグンゼの研究所で研究された体験をもとに「情報検索 ユニタム・システムについて」と題して発表されました。

最後に京都文化短期大学の石田紅子先生が、日本秘書協会関西支部の秘書84名についての実態調査をもとにして「日本企業における秘書業務の性別および経験年数による統計的分析」と題して発表されました。

次ぎは、グループ別研究会で、Aグループはカリキュラム等をめぐって、Bグループは教授法について、Cグループは秘書学研究のすすめ方の三班に分かれ、活発な討論が行われました。その後、全体で集まり各グループの「まとめ」を発表して閉会しました。

第9回研究会

平成元年8月10日大阪市北区堂山町の日生梅田ビル10階にある日立テクニカル・サポート・センターの日立光ディスクシステムヒットファイル650Eの見学をしました。このシステムは、最新の光ディスクを使って、1.スピーディーな検索、2.図面デザイン画などの画像情報管理、3.検索頻度の高い情報の管理、4.長期保存が必要な大量書類の管理を行うものです。

従来のファイリング・システムは、文書、資料の管理でしたが、このシステムは画像の管理がうまくできるのが利点です。また、情報を検索して復元でき、拡大、縮小も自在にできます。まだまだ高価ですが、普及すると省スペース化、事務能率の向上に役立つことはいずれもありません。

第10回研究会

平成元年10月21日大阪の「なにわ会館」で行いました。はじめは総会で、昨年度の活動報告、決算報告、監査報告が行われました。

次いで、今夏百日間アメリカに行ってこられた田中篤子先生の「アメリカの最新の秘書



事情」と題する講演がありました。アメリカで、秘書学はありうるか、秘書の地位は高いか、秘書教育は充実しているかの3つの視点から考察されました。

個人研究発表は、梅花短期大学の服部美樹子先生と森田義宏先生の共同研究「秘書適性の研究」の発表がありました。主として心理学的分析でした。聖和大学短大部の林雄太郎先生の発表は、「国際連合事務総長の秘書機構に関する考察(その1)」で、国際連合事務総長の秘書について、外務省をはじめ各機関に照会した情報をもとに中間報告的に発表していただきました。明石在住の広島女子商短期大学の藤田雅子先生は、「ジョン・ミルトンの秘書時代の業績と後世に与えた影響」と題して、作家でクローンウェルの秘書だったミルトンについての発表がありました。最後は聖泉短期大学の藤本ますみ先生の「秘書教育における段取りの技術—コザネ技法による行動計画のプログラミング—」で「コザネ」といわれる小さな用紙を使っての段取り技法の実践報告がありました。

ティータイム後、第8回と同じように、グループに分かれて討議を行い、最後に全体集会で、各グループごとに発表して終了しました。(福永弘之 記)

中国・四国ブロック

●リーダー

清水 慶秀 広島女学院大学

●サブリーダー

森貞 俊二 松山東雲短期大学

運営委員会

岡田 繁 川崎医療短期大学

胡 義博 鈴峯女子短期大学

佐藤 正則 徳島文理大学

三宅 耕三 香川短期大学

1989年10月7日(土)、第6回の研究会を松山の「にぎたつ会館」で開催。松山での開催は



これで2回目である。

31名の参加者により、午後1時から4時半まで、4人の先生方による、日頃の研究成果が発表された。まず、作陽短期大学の赤木文男先生による「データベースを利用した秘書業務の効率化—データベース教育について—」というテーマで、学生に対するデータベース教育の現状と情報処理技術者にとっての重要性について、次いで、広島文教女子短期大学の三

好撰子先生による「女子学生の結婚感と秘書に対するイメージ」という題で、秘書の職業観と結婚観について、SD法によるイメージ調査と意識調査の結果が報告された。

この後、休憩を兼ねて今回、初めての試みとして設定したフリートーキングの時間では、参加者が当面かかえている秘書教育に関する諸問題の開陳があり、コーヒーを飲みながら和やかに意見交換がなされたことは大きな収穫であった。

フリートーキングに引き続き、広島女学院大学の篠原収先生による「国際化と秘書教育」広島女子商短期大学の藤田雅子先生による「ガリレオ・ガリレイの秘書トリチェリと秘書ミルトンの出会い」のテーマで発表がなされた。篠原先生は、国際化時代の今こそ、専門職としての秘書の確立を意図的にめざす秘書教育が望まれる、と力説され、また一方、藤田先生は、トリチェリとミルトンの二人の人間を通して、「秘書職とは何か」という、基本的ともいえるべき問題について触れておられた。

これらブロック研究会に関する詳細については、中国・四国ブロック会報第3号を参照していただくことにし、その他、当ブロックの活動状況であるが、最近ややもすれば出席者や研究発表者の固定化に一抹の危惧がある。とのお声を聞いていたので、アンケートを実施し、忌憚のないご意見を寄せて頂いた。これらの貴重なご意見や示唆を、今後の研究会に大いに反映させていきたいと願っている。

今回は、運営委員 三宅耕三先生(香川短期大学)を中心に香川県での開催が決まっている。(森貞俊二 記)

中国・四国ブロック研究会

第6回大会プログラム

1989年10月7日(土) 13:00~16:30
於 にぎたつ会館
13:00~ 開会の挨拶
ブロック運営委員長 清水慶秀(広島女学院大学)

【研究発表】

(1) 13:10~ データベースを利用した秘書業務の効率化

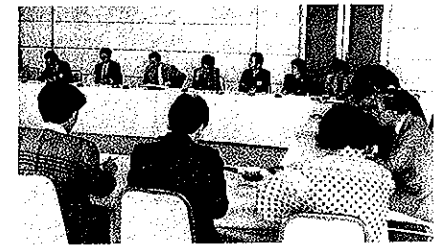
ーデータベース教育についてー

赤木文男(作陽短期大学)

(2) 13:45~ 結婚観と秘書に対するイメージ

三好撰子(広島文教女子大学)

14:20~ フリートーキング(コーヒー・ブレイク)



【研究発表】

(3) 15:20~ 国際化と秘書教育
篠原 収(広島女学院大学)

(4) 15:55~ ガリレオ・ガリレイの秘書トリチェリと秘書ミルトンの出会い
藤田雅子(広島女子商短期大学)

16:30~ 閉会の挨拶

ブロック運営委員 三宅耕三(香川短期大学)

九州・沖縄ブロック

●リーダー

井下謙次郎 鹿児島女子短期大学

●サブリーダー

内藤 郁世 佐藤ビジネス専門学校

運営委員

井原 伸允 香蘭女子短期大学

高 禎助 鹿児島女子短期大学

加島 静江 中村学園短期大学

佐藤 昭雄 近畿女子短期大学

千住 方 西日本新聞社秘書部長

田村 幸子 福岡女子短期大学

中川 厚子 長崎女子短期大学



九州・沖縄ブロックは、1989年9月30日、福岡市の佐藤ビジネス専門学校を会場に、第8回ブロック研究会を開催した。参加者は福岡を初め、鹿児島、宮崎、長崎、佐賀、大分等から約30名。地元有力企業からも参加をみて盛会であった。

研究会は、まず、1990年度全国大会の福岡開催決定等に関する一般報告ののち、「南九州における職場の実態と働くことの意識に関する調査」(鹿児島女子短期大学 井下謙次郎)と題して研究発表が行われた。同調査研究は、南九州地域の企業に就職した卒業生を対象に、職場における仕事の実態、働くことの意識に関する調査を行うことにより、今後の企業における人材育成、および女子短期大学におけるカリキュラムの改善に資することを目的としたものである。また、本調査は、1987年度に行われた「南九州における秘書及び秘書的業務の実態に関する基礎的研究」(鹿児島女子短期大学付属南九州地域科学研究所報第4号所収)を補完するものであり、前回調査が主として、企業サイドの視点に立つのに対して、本調査は、女子従業員として、働く者の側から、仕事の実態、働くことの意識等を調査したものである。

したものである。また、本調査は、1987年度に行われた「南九州における秘書及び秘書的業務の実態に関する基礎的研究」(鹿児島女子短期大学付属南九州地域科学研究所報第4号所収)を補完するものであり、前回調査が主として、企業サイドの視点に立つのに対して、本調査は、女子従業員として、働く者の側から、仕事の実態、働くことの意識等を調査したものである。



調査対象は、昭和61,62,63年度卒業生、計1,000名。調査内容は、①勤務年数②職種・仕事内容③通勤時間・通勤方法④会社の選択方法⑤働く目的⑥好きな仕事・嫌いな仕事⑦就職後得た資格⑧職務上必要な技能⑨職務内容⑩人間関係について⑪職業意識について⑫仕事に対する生きがいについて⑬今後の勤務

年数⑭短期大学教育で仕事に役立ったこと⑮短期大学教育に望むことの15項目。本調査報告をめぐって、参加者との間に、活発な質疑応答が行われたが、特に、1.職場における仕事の実態について一「女子の能力活用」が叫ばれながら、女子は依然として、定型的、補助的業務に従事している。2.仕事への張り合いについて一仕事に積極的評価を与えるものが少ない。3.勤続年数について一転職率が非常に高い。4.働くことの意識格差について一東京地区、九州地区と鹿児島地区との地域間格差。等に論議が集中した。

ただ、量的にも、また質的にも、今後さらにこの種の調査が進められる必要があろう。

その後、懇親会で会員相互の親睦を深めた。

また、12月2日には、ブロック運営委員会を開き、1990年6月に福岡市で開催される全国大会について協議が行われた。(井下謙次郎 記)

また、12月2日には、ブロック運営委員会を開き、1990年6月に福岡市で開催される全国大会について協議が行われた。

(井下謙次郎 記)



また、12月2日には、ブロック運営委員会を開き、1990年6月に福岡市で開催される全国大会について協議が行われた。

(井下謙次郎 記)

——第9回全国大会のご案内——

日本秘書学会第9回総会並びに全国大会の会場及び概略日程が下記の通り決定しました。

現在本大会での研究発表を募集中です。秘書学及び秘書教育に関するものでテーマは自由、応募の締切は、1990年3月12日です。応募要領の詳細案内は、会員にはすでに送付済みですがお問い合わせは学会事務局まで。

なお、詳細な「大会プログラム」及び「参加要領」は、5月上旬までに大会委員会(大

会事務局:福岡女子短期大学)からご案内いたします。

〈第9回全国大会 概略日程〉

●大会期日:1990年6月14日、15日

●会 場:福岡リーセントホテル
福岡県福岡市東区箱崎2-52
Tel 092-641-7741

●概略日程:6月14日(木)

9:45~18:00 総会、講演
研究発表

18:00~20:00 懇親会

6月15日(金)

9:30~15:00 研究会

——学会事務局からのお願い——

最近ブロック研究会に関するお問い合わせが増えております。ブロック研究会に関するお問い合わせは、各ブロック研究会事務局へお願いいたします。